

取組事例① 地域資源カーリングを活用した知名度向上と交流人口拡大

(北見市)

北見市では、地域資源であるカーリングを活用し、知名度向上と長期滞在型の合宿誘致等による交流人口拡大を図り、地域全体の「稼ぐ力」を高め、地域経済への経済波及効果を雇用創出につなげることを目指している。

関連数値目標・KPI

	基準値 (H30)	実績 (R2)	目標値 (R6)	進捗
年間200万円を超える給与収入者数(人)	35,910	36,300	基準値以上	目標に対し、順調に推移

取組の推進体制

北見市、北見カーリング協会、北見工業大学、市内関係団体など、広く産学官等が連携し、取組を効果的に推進

アルゴグラフィックス北見カーリングホールの年間利用者数の状況



新たに整備した市内2つ目のカーリングホールの利用者も大幅な増加傾向にある

取組事例 交流人口拡大を雇用創出につなげる

地域資源カーリングを活用した知名度向上と交流人口拡大のための拠点整備プロジェクト

令和2年10月に、地元大学の最先端スポーツ科学研究を実用化した高度な競技力向上支援機能を有する先導的な施設「アルゴグラフィックス北見カーリングホール」がオープン

○主な取組

北見カーリングホールを活用し、合宿誘致や体験型観光、オリンピックで銀メダルを獲得した女子チーム「ロコ・ソラーレ」の後進となる人材の育成、国内外大会の開催、小中学校の授業での活用など、カーリングの持続的発展と地域の活性化に向けて様々な取組を展開。

○主な成果

コロナ禍におけるオープンにも関わらず、本施設の年間利用者数や道外を含むカーリングトップアスリート等の合宿誘致数は順調に推移し、宿泊業や飲食サービス業など合宿関連産業への幅広い経済波及効果をもたらしている。

カーリングを活用したスポーツ・健康まちづくりの取組として、スポーツ庁長官から「スポまち！長官表彰2021」を受賞
(令和3年12月)



アルゴグラフィックス北見カーリングホール



最先端の競技力向上支援システム



北海道 北見市

取組事例② 新規宅地分譲地の整備による移住者及び転入超過数の増加

(更別村)

更別村では、新規の宅地分譲地を整備し新築住宅の建設需要に対応。また、住宅建設事業での補助や移住系・子育て系ガイド等の配布などハード・ソフト面両方での支援を充実。

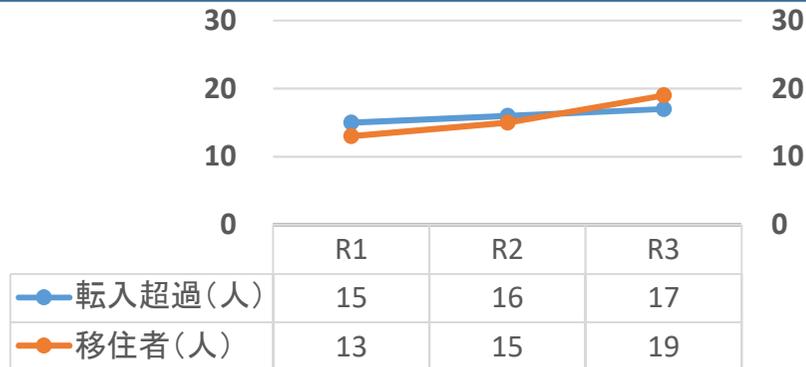
関連数値目標・KPI

	基準値 (R元)	実績 (R3)	目標値 (R6)	進捗率 (%)
転入超過数	0	33	50	66.0
移住者数	0	34	50	68.0

取組の推進体制

庁内体制において、移住希望者が来た際に担当が窓口にはなるものの要望に応じて関係課と連携を取り素早く対応。場合によっては、分譲地や施設等の案内も行っている。

移住施策の利用状況



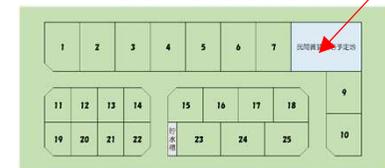
転入者や移住者が僅かながらも近年増加傾向にある。

取組事例 移住環境を整える施策

宅地分譲地の整備(新コムニ団地)

- 主な取組
 - ・R2年に分譲地25区画を造成(24区画は一般向け、1区画は賃貸)。
 - ・R2末に先行販売の実施(12区画契約)。
 - ・R3.4より一般販売を開始し、HPや移住・定住ガイドで周知。
 - ・ハウスメーカーや工務店に宅地分譲したことの売り込みをかけ、新築で土地を探している方に情報提供依頼。

こちらから撮影しました。

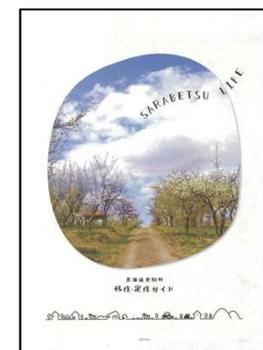


- 主な成果
 - ・R4.7現在で残り4区画まで契約済



移住相談時における関係各課との連携

- 主な取組
 - ・移住者が来庁された際に聞き取りなどから、関係各課へ顔つなぎ。
 - ・村役場ならではの小さな組織だからこそできる連携。
 - ・来訪者が来てもすぐ対応できるように移住・定住ガイドや子育て応援ガイドの作成。
- 主な成果
 - ・現場視察も職員が同行し対応しているため、移住につながる確率がアップ。



取組事例③ 島への新しいひとの流れをつくる 移住定住の促進

(礼文町)

礼文町では、広大な自然や豊かな食など、町の優れた地域資源を国内外に広く発信し、観光客や移住者の増加を図るとともに、若者が定着する拠点として、新しい人の流れを創出する取組みを進めている。

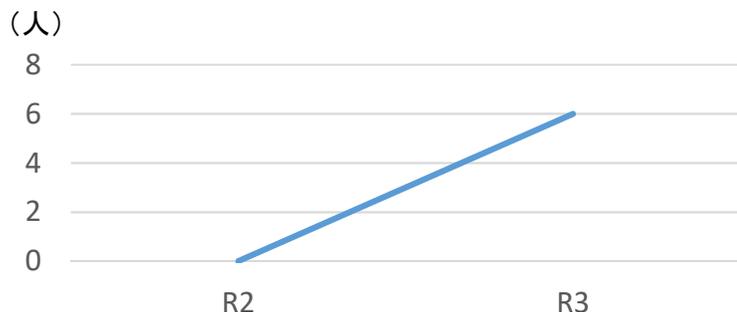
関連数値目標・KPI

	基準値 (R元)	実績 (R3)	目標値 (年間)	進捗率 (%)
移住相談 件数	10	29	20	145%

取組の推進体制

礼文町では、空き家などの情報を提供できる仕組みを構築することで、移住・定住の促進を図るとともに、ワンストップ窓口や移住定住コーディネーターを配置するなどの取組により、総合的な移住・定住支援を推進している。

田舎暮らし体験件数の状況



礼文町では、平成28年からふるさと体験道場「礼文番屋」整備し、就業体験を行ってきたが、新型コロナウイルスの影響もあり、利用者数が伸びなかったが、令和4年開業した移住定住・人材交流施設「袋澗」との相乗効果により、今後の利用者増加が期待される。

取組事例 移住定住の促進

移住定住・人材交流施設「袋澗(ふくろま)」の整備 (地方創生拠点整備交付金を活用し、令和4年に開業)

○主な取組

- ・移住定住についての「ワンストップ窓口」「移住定住コーディネーター」の配置
- ・コワーキングスペース、シェアハウスとしての活用

○主な成果

- ・移住に関する相談件数が約3倍に増加
- ・コワーキングスペース利用者は開業3ヶ月で227名が利用



田舎暮らし体験の推進

○主な取組

- ・体験施設の整備
ふるさと応援体験道場「礼文番屋」を、平成28年に整備
- ・ふるさと応援就業体験
島民との交流を深め、礼文島での暮らしへと回帰する機会を提供

- ・漁業チャレンジ (魚の網外しなど)
- ・水耕栽培 (施設内の水耕栽培で野菜栽培)
- ・施設維持 (道場及び公園維持作業)



ふるさと応援
体験道場
「礼文番屋」



取組事例④ 子育て応援施策の推進

(由仁町)

由仁町では、令和2年4月より、妊娠・出産から子育てにわたるまでの様々な相談に応じ、切れ目ない支援を行う体制を整備することを目的として、「由仁町子育て世代包括支援センター」を設置

関連数値目標・KPI

	基準値 (R2)	実績 (R3)	目標値 (R6)	進捗率 (%)
相談件数	4	6	10	60

取組の推進体制

由仁町子育て世代包括支援センター

●開設時間

月曜日～金曜日 8時30分～17時

●場 所

健康元気づくり館
(夕張郡由仁町東栄87番地1)

●実施体制

センター長 1名
保健師 3名 計4名

取組事例 子育て応援施策の推進

由仁町子育て世代包括支援センターでの相談受付

○主な相談内容(令和3年度 6件)

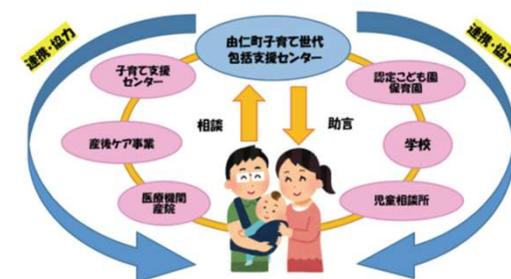
- ・出産直後の不安に関する相談
- ・医療機関連携に関する相談
- ・子育て全般に係る不安等に関する相談

○主な効果

- ・包括支援センター設置による相談体制の整備により、子育て世代が、気兼ねなく子育てに関する相談を行うことが可能となった。

○主な成果

- ・相談数が令和2年度の4件から令和3年度は6件に増加



取組事例⑤ 子どもにやさしいまちづくり事業実践自治体としての各種取組 (安平町)

安平町では、子どもたちの「遊び」「学び」「挑戦」をサポートする安平町独自の教育プラン「あびら教育プラン」を継続的に実施するほか、令和5年の早来学園開校に向けた各種会議やアンケートの実施など、CFCIの理念に基づき子どもの意見を多く取り入れながら新たな子育て・教育環境の構築を進めている。

関連数値目標・KPI

区分	基準値 (R元)	実績 (R3)	目標値 (R7)	進捗率 (%)
小学校児童の維持・向上	49人	44人	60人	73.3%
中学校生徒の維持・向上	56人	51人	60人	85.0%

取組の推進体制

ユニセフの定める「日本型子どもにやさしいまち（CFC）モデル構成要素10項目のチェックリスト」に基づき、行政上の子どもにやさしい法的枠組みや子どもの人権を保障する施策の実施状況などについて毎年度評価を行い、着実に取組を推進。

日本型子どもにやさしいまち(CFC)モデルチェックリストの状況



令和2年度から子どもにやさしいまちへと改善傾向にある。

取組事例 新たな子育て・教育環境の構築

子どもの権利や社会参画を推進

○主な取組

- あびら教育プランの取組みにおいて、子どもの発想や意見を具現化するなど、子どもの社会参画のサポートを実施している。
- 平成30年北海道胆振東部地震により被災した早来中学校を、小中一貫の義務教育学校として再建する計画を進める中で、学校名や制服のデザイン等について、子どもたちの意見を聴く機会を設け、そこで出された意見を取り入れている。



早来学園建設現場を見学する小学生

○主な成果

- ユニセフ日本型「子どもにやさしいまちづくり事業」の実践自治体として正式に承認
- 「子どもに意見を聴く」という認識が職員間でマインドセットされつつある
- CFCIの取組みが安平町のオリジナリティとして町のPRにも寄与



取組事例⑥ 農業、林業・林産業などの産業振興の推進

(下川町)

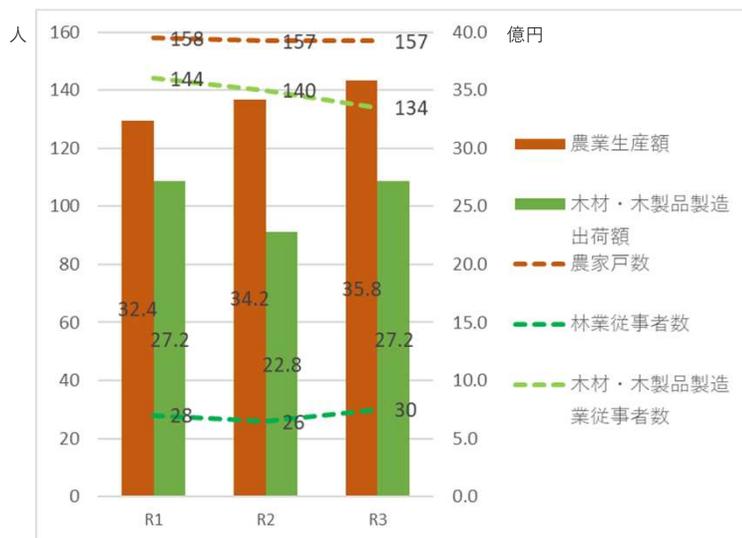
下川町では、農業、林業・林産業などの基幹産業の振興を進め、生産性の向上や担い手の確保を図りながら地域課題を解決し、持続可能な地域づくりを目指している。

関連数値目標・KPI

KPI	基準値 (R元)	実績 (R3)	目標値 (R12)	進捗率 (%)
農業生産額	32.4億円	35.8億円	33.0億円	108.5
木材・木製品製造出荷額	27.2億円	27.2億円	30.0億円	90.7

農業生産額は基準値（R元）や目標値（R12）を上回っている。林業・林産業分野では、担い手の確保が課題である。

農業、林業・林産業の状況



農業生産額や農家戸数は、増加傾向にある。

取組事例 生産性の向上や担い手の確保

生産性の向上

- 主な取組
 - ・秀品率向上対策（フルーツトマト半溶液栽培支援）
 - ・施設園芸高度化（施設園芸ハウス環境制御装置）
 - ・林業・林産業振興事業（高性能機械導入等）
- 主な成果
 - ・農業生産額の向上
 - ・木材・木製品製造出荷額の向上（微増）

担い手の確保

全産業の共通課題である人材不足の課題解決に取り組むため、産業活性化支援機構タウンプロモーション推進部を設置。

- 主な取組
 - ・移住相談
 - ・求職者と求人事業者のマッチング
 - ・情報発信
 - ・オンラインイベント
 - ・LINE等を活用した「1年後移住するぞ!」プロジェクトや関係人口創出コミュニティ
 - ・「くらしごとツアー」開催
- 主な成果
 - ・移住者33人（相談件数598件）
 - ・求職者と求人事業者のマッチング13件（人材バンク求職登録者数36名）

